

六稜合気会

「合気道と私」

——北野高校時代の思い出——

氏名：塚本 渉 (111期)

1. 入部の動機

合気道部に入った動機は、その神秘性に惹かれてというのが一番近い。高校入学当初、何か武道をやってみたいという思いがあった私は、剣道部、柔道部と見学したものの、筋トレメイン？の練習メニューにあまり魅力を感じていなかったところ、不思議な動きで相手を投げている合気道に興味をもち、入部。

また、朝練、昼練（文化祭前以外は）のみという、短時間集中型の練習スタイルが魅力的に思った。

2. 部活生活

部活生活は、朝練・昼練のみで、朝練をメインにやっていた。最初は朝5時過ぎに起きるのが辛く、寝ぼけまなこで、朝ご飯を食べて通っていたが、慣れてくると5時になるとぼっと目が覚めて、家を出れるようになっていた。この、早起き生活スタイルは、社会人となった今でも続いており、高校時代の朝練の賜物であると感じている。

文化祭前は、練習時間も朝練、昼練、夕練とフル活動するため、授業中も大変眠く、よく眠って授業を聴いていたのを覚えている。成績は下降線をたどっていたのだが、合気道の練習には没頭し、演武大会に無事臨めた。何かに没頭できるという貴重な時間を経験できたことは大変良かったと思っている。

夏休みには、OBの先輩方が代わる代わる練習を見に来ていただき、先輩方の代のやり方や逸話、阿部先生の思いでとともに、技と歴史を伝授していただいた。そのため、我が合気道部は阿部先生を軸として、連綿につながる一体感をいつの代も共有しているのではないかとと思っている。

また、夏休みの練習というのは、休み期間中ともあって、練習時間も長かった（通常時とは違って、午前中の3時間とか）ので、OBの先輩達から、技のやり方以外に、技の成り立ちや理論を時間をかけて享受していただき、深く考えながら合気道と向き合うことができ、大変貴重な時間であった。

3. 合宿の思い出

合宿は、夏休み中に吹田道場で行われ、部のメンバーと寝食を共にし、部の結束を強められたよい機会であった。練習メニューとしては日ごろの学校での練習とは違って、道場メニューとなるため、宗教的な要素が多く盛り込まれ、当時の私には神秘的であった。

朝起きて、冷水をかぶって、ふんどしの道場の方々とこぶしを振る、禊。不思議な声を上げてお経みたいなのを読み上げる、祝詞。奇妙奇天烈で、違和感があったものの、何

も知らない自分と、合宿という合気道しかないという特異な条件も相まって、自然と受け入れ練習に打ち込んだ。合宿での不思議な体験と練習のおかげで、普段の高校での練習も、人間の不思議なエネルギーを感じながら練習を行うことができ、思考回路が増え、精神統一方法のひとつになった。

4、阿部先生との思い出

阿部先生は、隔週または月一回、高校まで来てくださり、練習を見に来てくださっていた。今思えば、とても恐れ多く、また大変ありがたいことであると感じている。当時は、阿部先生のお不思議な動きがあまり理解できず、受け身のしどころが解らず、よく先輩に「そこ！」とか小声で言われながら、受け身をとっていた。そのため、当時の自分は阿部先生のエネルギー（気持ちや考え）を感じとることに専念した。（人の気持ちを感じとることは大変難しいのは、今でも変わりません。）

5、今後

今年、2010年に東京で六稜合気会が発足となり、合気道および阿部先生を軸とし、同じ場所で合気道を経験した人たちが集う機会を得ることができた。今後は、この貴重は経験と機会を大切に、後輩および母校の貢献を考えていきたいと思っている。